

〈調査報告〉

インドネシアにおける高等教育質保証システムに 関する実地調査報告

—ASEANにおける高等教育の地域統合の方向性を見据えて—

早田幸政・前田早苗・島本英樹・田代 守

はじめに

1967年に発足し、言語、文化、宗教が異なる東南アジア10ヶ国で構成されている「東南アジア諸国連合（ASEAN）」は、国別の経済発展の度合いに差があるとは言え、総じて世界経済の動向を左右するほどの高い経済成長を遂げ、同地域の「統合的市場化」の方向が指向されるまでの段階にある。

その中でもインドネシアは、ASEANの総人口、総名目GDP、総面積のいずれも4割を占めるなど、同地域内において圧倒的な優位性を誇っている。実質GDP成長率も5%～6%と高水準で、第2位のタイを大きく引き離しその差は益々拡大していくと見られている。

インドネシアが経済面でこうした急成長を遂げていることに伴い、高等教育人口も400万人を超える規模にまで達している。本報告は、世界屈指の高等教育人口を誇る同国の高等教育制度とその実態を、高等教育質保証の視点から照射し、量的に大きな規模に達した高等教育の質を維持するためのシステム上の工夫について紹介しようとするものである。

1. 本調査及び同報告の趣旨

今日 ASEAN は経済分野を軸とした「統合的共同体」の発展を視野に収め、「ASEAN 共同体（ASEAN Community）」を創設しその歩を着実に進めている。そして「共同体」としての地歩を固める一環として、ASEAN 地域内におけるモノ・サービスの流通や投資の自由が保障され、人々が同域内を円滑に移動できるような自由で競争的な経済環境を基礎とした統合的市場の確立を図るとともに、それを ASEAN 地域内の人的資源の能力開発の推進と連結させることが重要な政策課題となっている。

こうした政策動向を踏まえ高等教育分野でも、有為な人材の育成に向け高等教育機能を充実・強化すべく、ASEAN 諸国が国別に高等教育機関の卒業生・修了者の質を確保し保証するシステムを構築・運用するとともに、質保証の効果が当該国にとどまらず、ASEAN 地域内で汎用的に通用できるようにする枠組み作りが推進されるようになった。

このように ASEAN における国別そして同地域共通の高等教育質保証の仕組み作りが斬新な手

法で進められていることを背景に、今回の調査に臨んだプロジェクト・メンバーは、これまでタイ、マレーシアにおける高等教育質保証システムの調査を行ってきた。タイの調査に係る報告は、「ASEAN 地域連携による高等教育の質保証とタイ王国のアクレディテーション・システム」大阪大学全学教育推進機構『大阪大学高等教育研究』第4号（2015.3）として既に公にされている（マレーシアの調査報告も、最新動向を加筆の上、研究誌への掲載を予定している）。

本調査報告は、人口規模、国土面積並びに経済規模等において圧倒的優位性を誇るとともに、世界有数の高等教育人口を擁するインドネシアの高等教育質保証システムの中で大学の「内部質保証」、外部質保証機関によって実施される「外部質保証」における各々の質保証のメカニズムとその運用実態、同国の高等教育質保証システムとASEAN 共通の高等教育質保証の枠組みの関係性、等を実地調査し結果を取りまとめたものである。

2. 本調査の方法と視点

(1) 本調査の方法

実地調査に先立つ書面調査では、インドネシアの高等教育制度とその実相の概要把握、同国固有の高等教育質保証システムの現況把握を行うとともに、インドネシアを包摂するASEAN 共通の高等教育資格枠組みの構築・運用プロセスに係る現状の把握とその意義の解明を試みた。

今回の実地調査は、現地の調査対象機関の責任者等からの聴取り調査を軸に実施し、上記書面調査を担当した早田幸政（中央大学教授）、前田早苗（千葉大学教授、今回編成の実地調査団の主査）、島本英樹（大阪大学准教授）、田代守（大学基準協会評価研究部企画・調査研究課課長）でこれを行った。事前準備として、今回実地調査の企

画を早田が、訪問先との事前折衝を前田がそれぞれ担当した。

本実地調査は、2018年8月6日～8日の期日で行った。実地調査の対象としたのは、「インドネシア国立高等教育アクレディテーション機構（BAN-PT）」、「インドネシア国立大学（University of Indonesia）デポック・キャンパス」（国立大学）、「アトマジヤヤ大学（Atma Jaya University）セマンギ・キャンパス」（私立カトリック大学）であった。

本調査報告の執筆分担に関しては、「3(1)インドネシア国立高等教育アクレディテーション機構」を田代が、「3(2)インドネシア国立大学」を前田が、「3(3)アトマジヤヤ大学」を島本がそれぞれこれを担当した。「はじめに」、「1」、「2」及び「4」は早田がその執筆をするとともに、本報告全体の文言調整を行った。

(2) 本調査の視点

本調査の対象が、国設の独立系高等教育質保証機関と2つの大学であったことから、関係者からの聴取り調査を行うにあたっては、前者と後者とでそれぞれ異なる視点を交えてこれを行うことが必要であった。

まず、BAN-PT に対しては、a) その組織概要とアクレディテーションの実施手続、b) 同機関が営むアクレディテーションにおける「ラーニング・アウトカム」の位置づけ、c) ASEAN 共通の高等教育質保証枠組みへの同機関のコミットの状態、といった質問事項を用意し、これに基づき実際に質問し質疑応答を行った。

そこで予め用意した質問事項は、次のようなものであった。

次いで、マレーシア国立大学、アトマジヤヤ大学に対し、a) 各大学における「内部質保証」シ

- BAN-PT の設置形態及びアクレディテーションの実施組織、実施手順の概要と特質.
- BAN-PT のアクレディテーションでの大学機関別評価と教育プログラム評価の関係性.
- BAN-PT によるアクレディテーションにおける大学の「内部質保証」の位置づけ.
- 「ラーニング・アウトカム」を軸としたアクレディテーションの手法と、そこでの「インドネシア資格枠組み (Indonesian Qualifications Framework, IQF)」の位置づけ・活用法.
- ASEAN 協働の質保証システムの構築・運用システムの現時点での展開状況.
 - 1) AQAN (ASEAN Quality Assurance Network) における BAN-PT の役割.
 - 2) BAN-PT と ASEAN 質保証枠組み (ASEAN Quality Assurance Framework, AQAF) の関係.
 - 3) BAN-PT と ASEAN 資格参照枠組み (ASEAN Qualifications Reference Framework, AQRF) の関係.
- ASEAN 協働の高等教育質保証システムへの BAN-PT の関与の状況・程度 (AQRF の活用の有無, AQAF が実施した試行評価 (Pilot Review)) への参加の状況等).

システムの構築・運用の状況, b) 内部質保証における「ラーニング・アウトカム」の位置づけ, c) 内部質保証と (BAN-PT が行う) アクレディテーションの関係性, d) 大学の教育質保証が, 国境を越えた学生移動の促進にもたらす効用, とい

った質問事項を用意し, これに基づき質問し質疑応答を行った.

そこで予め用意した質問事項は, 以下の通りである.

- ◇ 大学内にどのような「内部質保証」システムを構築し如何に運用しているのか.
- ◇ 大学固有の「内部質保証」と外部質保証機関の行うアクレディテーションは, どのような関係にあるのか.
- ◇ 大学全体で行う「内部質保証」と教育プログラム毎に行う「内部質保証」の共通点, 異なる点としてどのようなことが挙げられるか.
- ◇ 「内部質保証」において, 「ラーニング・アウトカム」は如何位置づけられ, その測定・評価において如何なる工夫がなされているのか. 測定・評価の実施方法について, 外部質保証機関から特段の助言や指導等があるのか.
- ◇ 学位授与・卒業認定に至るプロセスにおける同国の「資格枠組み—高等教育レベル—」(“IQF”)の位置づけ, 活用法についてご教示願いたい.
- ◇ 外部質保証機関のアクレディテーションを如何評価しているか. 受審のメリットと作業負担の両方の側面からご教示いただきたい.
- ◇ ASEAN 地域横断的な大学間交流, 学生交流において, 高等教育質保証の効果が ASEAN 地域に所在する大学間で共有できている, との印象をおもちか.

3. 調査結果の内容

(1) インドネシア国立高等教育アクレディテーション機構

① 調査の概要

2018年8月8日(水)午後、「インドネシア国立高等教育アクレディテーション機構(Badan Akreditasi Nasional Perguruan Tinggi, BAN-PT)」を訪問した。

BAN-PTは1994年に設立された、インドネシアにおける高等教育の代表的なアクレディテーション機関であり、研究技術・高等教育省が管轄する独立・非営利組織である。

インドネシアにおける高等教育は、2012年の高等教育の質保証に関する法律第12号により、4つの側面から質保証されることとなった。a) 国の高等教育基準とb) 内部質保証、c) 外部質保証、そしてd) 高等教育に関わるデータベース・システムである。BAN-PTは、これらのうち、c) 外部質保証を担っている。

インドネシアには、高等教育のアクレディテーションを掌る組織として、高等教育機関(大学全体)を評価対象とするBAN-PTに加え、プログラム(学科)を評価対象とするLAM-PT(Lembaga Akreditasi Mandiri Perguruan Tinggi: 高等教育機関向けの独立したアクレディテーション機関)の2種がある。

このうち、LAM-PTについては、2018年時点において、医療分野の評価機関しか存在していないため、同分野以外のプログラム(学科)への評価はBAN-PTが行っている状況にある。

したがってBAN-PTは、高等教育機関を対象とするアクレディテーションと、医療分野以外のプログラム(学科)を対象とするアクレディテーションを担っていることになる。

今回の調査に当っては、事務局長である Agus Setiabudi, M. Si 博士に対応いただいた。

② 調査の内容

調査は、概ね事前に送付していた7つの質問項目に沿って行われたが、以下に、1) BAN-PTの評価件数、2) BAN-PTの評価体制、3) BAN-PTの評価の手順、4) 大学機関別評価とプログラム(学科)別評価との関連について、5) BAN-PTの評価基準について、6) ASEAN共通の質保証システムとの関係について、に分けて調査内容を記述する。

1) BAN-PTの評価件数

インドネシアには現在、4,000を超える大学、26,000に上るプログラム(学科)が存在する。

これらを5年に1度評価するために、BAN-PTは、毎年500~800大学、3,000~3,500のプログラム(学科)を認定している。計算上、月あたり400の大学もしくはプログラム(学科)を認定していることになる。2018年はすでに2,400件の申請を処理してきており、また、現在(2018年8月8日)、1,430件が受理待機中である。

2) BAN-PTの評価体制

BAN-PTのアクレディテーションは、認定協議会と評価実行委員会、そしてそれらを支える事務組織によって運営される。7名で構成される認定協議会の下で制度や方針を定め、その制度・方針に基づいて、5名で構成される評価実行委員会が評価事業を遂行する。

実際の評価に携わる評価者は、全国の大学教員のうち、一定の要件を満たした者で構成される。ここでいう一定の要件とは、少なくとも博士課程を修了し、かつ学内で役職に就いており、さらには質保証に関する知識と高等教育におけるマネジメントの知識を有する者である。

評価者候補は、筆記試験、面接、心理テストを

受け、それら全てをクリアしてはじめて評価者として採用される。現在、そうした要件を満たした評価者の総数は約1,800名である。

評価者には、質保証や大学運営に関わる知識、BAN-PT の評価システム等の修得を目的とした研修が施される。

評価者がこれだけ厳格な定めに基づいて選抜、育成されているにもかかわらず、評価者を務めたことによるメリット、一例えば、教員自身のキャリアに良い影響が与えられることなどはそれほどあるとはいえない。とはいえ、評価の経験により、大学教員としての知識やスキルは確実に向上する。また、高等教育の質保証・向上に貢献したいという情熱が醸成されること、あるいは広大なインドネシア国内の他大学について識見を得られること等、評価者を経験することで得られる実質的なメリットも認められる。

評価の具体的な作業にあたっては、1大学あたり2～6名、1プログラム（学科）あたり2名の評価者が担当する。この内、大学については、それぞれの有するプログラム（学科）数に応じて担当評価者の数が変動する。2～3学科程度を有する小規模大学であれば2名、150学科を有する大規模大学であれば5～6名が担当する。

3) BAN-PT の評価の手順

評価にあたっては、まず、評価申請書類のチェックに2週間から1ヶ月を要し、実際に作業が始まってから実地評価を含めた全プロセスが終了するまで3ヶ月程度を要する。なお、認定期間が終了する各大学、プログラム（学科）には、最低でもその6ヶ月前までには申請するように指導している。

評価は教育業績報告書や自己点検・評価報告書を基にした書面評価と、評価者自身が各機関を訪問して行う実地評価によって進められる。

評価を申請する大学、プログラム（学科）にとって、自己点検・評価報告書の提出は義務ではない。また、インドネシアにおいては、内部質保証よりも先にアクレディテーションが制度化された（1996年にまずアクレディテーションが制度化され、その後2004～2005年に内部質保証が導入された）という経緯があり、評価申請に当たって自己点検・評価報告書を作成する大学、プログラム（学科）は少数である。

すなわち、2008～2017年の期間においては、評価申請にあたり、自己点検・評価報告書を提出した大学、プログラム（学科）は全体の10%に留まっていた。しかしながら、2004～2005年に内部質保証の考えが導入されると、研究技術・高等教育省が内部質保証を重視する意向を示したことから、2018年以降は、自己点検・評価報告書を作成する申請大学、プログラム（学科）の割合は48%に上昇することとなった。とはいえ、自己点検・評価報告書の提出は義務ではないため、今もってその提出は、大学の判断によっている。

評価結果にはA・B・Cの判定が付与される。C判定も付けられないと判断された大学は不適合ということになる。不適合大学には、学生に対する卒業認定が許可されない。すなわち、実質的に大学としての営業が停止されることになる。

このようにBAN-PT の評価結果は、大学への行政的処置へと連動することから、不適合とされた場合の異議申立制度が設けられている。不適合とされた大学、プログラム（学科）のうち、異議申立制度を利用するのは、およそ2～3%である。

なお、昨年からはオンラインシステムが導入され、評価者はネット上に掲示された評価資料を利用し、実地評価以外は遠隔で評価作業を行うことができるようになった。

4) 大学機関別評価とプログラム（学科）

別評価との関連について

前述の通り、現在、BAN-PTは、大学を対象とする評価とプログラム（学科）を対象とする評価を実施している。両者は個別に実施されるが、それぞれの関連性がないわけではない。

大学に対する評価項目のうち、およそ15%はプログラム（学科）に関わる項目である。そのため、プログラム（学科）でどのような評価結果を受けているかによって、大学の評価結果にも影響してることが考えられる。つまり、各プログラム（学科）がそれぞれ良い評価結果を得た場合、大学全体も良い評価結果を得る可能性が高いということである。

5) BAN-PT の評価基準について

2018年8月時点において、BAN-PTの評価では、以下の9つの基準が用いられている。

1. ビジョンと使命
2. ガバナンスと協力
3. 学生
4. 人的資源
5. ファイナンス、施設とインフラ
6. 教育
7. 研究
8. コミュニティサービス
9. 業績と成果

昨年までは「1. ビジョンと使命、目標と目的、達成戦略、2. ガバナンス、リーダーシップ、マネジメント、品質保証システム、3. 学生と卒業生、4. 人的資源、5. カリキュラム、学習、教育の環境、6. ファイナンス、施設とインフラ、情報システム、7. 研究、サービス/コミュニティサービス、協力」という7つの基準が用いられていたが、その必要性に鑑み、アウトカムに関わる要素を加えるとともに基準の割り振りを変えた。

従来の基準による評価では、相対的にインプッ

トやプロセスに重きを置いており、教育条件が整備されていれば相応の評価結果を得ることができた。しかし2018年以後、アウトプット、アウトカムをより重視する姿勢に移行することになった。ただし、新しい基準が導入されてからいまだ日が浅く、大学機関別評価については2018年10月以降、プログラム（学科）評価については2019年1月以降から、新基準が適用される予定である。

なお、アウトカムを重視する評価に移行するものの、今のところ、BAN-PTが各大学におけるアウトカムの測定方法等に何らかの影響を及ぼすことは想定されていない。BAN-PTとしては、国の定める法令に則った評価を行うだけであり、基本的にはアウトカムの評価についても国の基準への適応状況に基づいて判断するにとどまる。畢竟、アウトカムの設定、測定については、各プログラム（学科）の取組に委ねることになる。

6) ASEAN 共通の質保証システムとの関係について

ASEANにおいては、「ASEAN 資格参照枠組み (ASEAN Qualifications Reference Framework, AQRF)」によって、域内各国の教育の枠組みがラーニング・アウトカムの観点で比較可能なものとなっている。例えば、インドネシアにおける枠組みである「インドネシア資格枠組み (Indonesian Qualifications Framework, IQF)」は9段階に、マレーシアの同枠組みは7段階に分かれているが、AQRFがあることによって、各国教育の質の共有化を図ることができる。

BAN-PTの評価は、このAQRFに連なるIQFを活用することにより、間接的にASEAN域内に広がる教育の質にコミットしている。すなわち、BAN-PTの評価においては、各プログラム（学科）がカリキュラムを設定する際には、それらがIQFに対応したものでなければならないとのガイドラ

インを設けている。なお、IQFは、研究技術・高等教育省の責任において設定されるものであり、BAN-PTがIQFの設定について何らかの影響力を行使する立場にあるわけではない。

2008年に、ASEAN域内における高等教育質保証システムの調和を図ることを目的の一として「ASEAN質保証ネットワーク（ASEAN Quality Assurance Network, AQAN）」が設置された。BAN-PTは現在、そのディレクターがAQANの会長を務めるなど、同組織において大きな役割を果たしている。

AQANは欧州連合（European Union, EU）の支援を得て、2015年に「ASEAN質保証枠組み（ASEAN Quality Assurance Framework, AQAF）」を策定した。AQANはその構成メンバーに対し、可能な限りこのAQAFに基づく質保証を実施することを求めている。

AQAFは、①外部質保証機関、②外部質保証の基準・手続、③内部質保証、④国家資格枠組みという4領域で成り立っており、各領域の中でそれぞれの質保証の適切性を示す条件が定められている。

BAN-PTは、2017年、上記AQAFの内、①外部質保証機関、②外部質保証の基準・手続の2領域への適合性に関する試行評価を受けた。試行評価は、ASEAN、ヨーロッパからそれぞれ2名ずつの専門家が派遣されて実施された。なお、AQAFについての評価の本格実施は今年（2018年）からである。

AQAFと前述のAQRFとは混同されやすいが、両者は目的が大きく異なる。AQAFは内部質保証、外部質保証の仕組みに関わる枠組みであり、AQRFはそれぞれの国のラーニング・アウトカムに基づく卒業（修了）資格に関わる枠組みである。

AQAFの策定と運用をみてもわかるように、

ASEANにおける高等教育の質保証枠組みについては、EUのシステムを相当程度、参考にしている。ただし、Agus Setiabudi, M. Si博士は、実際の質保証の運営については、両者には相当の差異が出てくるものと予想している。なぜならEUとASEANとでは国情も高等教育を取り巻く環境も大きく異なるからである。

③ 小括

BAN-PTが現在行っている評価は、不適合とされた大学、プログラム（学科）に対し、所属学生への卒業認定権を剥奪するという、厳しい行政措置への連携が特徴としてあげられる。当然のことながら的確かつ公正な評価運営が求められ、また、評価者に質的に高いハードルを設けるなど相応の努力は認められるものの、月当たり400件という、極めて大規模な処理件数を勘案すると、果たしてその質がどの程度担保されているかはいささか疑問である。

ASEAN域内では、ラーニング・アウトカムに基づく教育の枠組み形成が進みつつあり、インドネシアでもその動きへの対応が見られないわけではない。しかしながら現在、国を代表する評価機関であるBAN-PTでは、アウトカムに基づいた評価は未だ実質的に行われているわけではない。

発展著しいASEANにあってその最大国家であるインドネシアには、教育の質保証分野でも大いなる可能性が認められるが、同時にその規模故の課題も多いように感じられた。

(2) インドネシア国立大学

① 調査の概要

2018年8月7日（火）午後インドネシア国立大学（University of Indonesia, UI）のデポック・キャンパスを訪問した。インタビュー調査に対応していただいたUIのスタッフは、教育質保証部（Board of Academic Quality Assurance,

BPMA)の副部長のYuni K. Krisnandi氏及びカリキュラム開発部副部長のAnak Agung Putri Ratna氏だった。

UIは、1849年にオランダ政府によって設立された医学高等教育機関に起源をもつ歴史ある大学であり、インドネシア国内では常にトップに位置する国立総合大学である。医学系、科学技術系、人文社会系の3つのクラスターを形成する14の学部が計55のプログラムを展開している。学士課程の学生数は約47,500名である。大学院課程には、同様に3つのクラスターに68の修士課程プログラム、37の博士課程プログラムがある。専門職プログラムも5プログラム展開している。広大なキャンパスに統一感のある建物が点在しており、落ち着いた雰囲気のある大学である。インドネシアで常にトップレベルの教育研究活動を行っている大規模な大学であるが、以下に記すように内部質保証の構築に精力的に取り組んでいる。

② UIの質保証の概要

インドネシアでは、2012年に高等教育の質保証に関する法律が制定され、同年、大統領令によって「インドネシア資格枠組み (Indonesian Qualifications Framework, IQF)」が導入された。IQFはレベル毎に修得すべき内容が設定されており、大学が教育を実施する際には、IQFに沿った内容であることが求められている。

UIは、国の政策に基づいて、2016年に内部質保証の方針を、2018年には学長令で内部質保証システムのガイドライン及び教育の内部監査のガイドラインを策定した。

質保証のための基準は、法令に基づいた「教育」、「研究」、「社会貢献」の基準のほか、UI独自の基準を加え、全32項目からなる基準を設定している。これらは外部評価機関であるBAN-PTの2019年から適用される9項目の基準にも対応している。

さらには、継続的な質の改善のためにISO9001の認証も受けるなど、質保証に対する意識が高い。

【UIの質保証のための基準】

◇ 教育

- 1) 卒業生のコンピテンシー、2) カリキュラム、3) 学習プロセス、4) 学習評価、5) 教員及び支援スタッフ、6) 学習施設、7) 学習管理、8) 学修に関する財務

◇ 研究

- 1) 研究成果、2) 研究内容、3) 研究プロセス、4) 研究評価、5) 研究者、6) 研究施設、7) 研究管理、8) 研究に関する財務

◇ 社会貢献

- 1) 社会貢献の成果、2) 社会貢献の内容、3) 社会貢献のプロセス、4) 社会貢献の評価、5) 社会貢献への参加者、6) 社会貢献の施設、7) 社会貢献の管理、8) 社会貢献に関する財務

◇ UI独自基準

- 1) 学生サービス、2) 卒業生へのサービス、3) 国際的なサービス、4) アカデミックとノンアカデミックの協力、5) 質保証、6) 大学経営、7) 広報活動、情報公開、8) アーカイブ管理

質保証サイクルは、基準の設定、基準に基づく諸活動の実施、活動に関する報告書の作成、報告書に基づく自己評価と改善、というサイクルで行われ、実質的な質改善につなげている。

2002年から内部質保証に着手したUIは、2007年からは外部質保証のための評価を受け始め、内部質保証、外部質保証とも年々の充実を図り、2022年にはすべての学部が外部質保証を経験するような高い質の文化の醸成を目指している。そのため、1) 個人レベル (教員、職員、学生)、2)

学科レベル，3) 学部レベル，4) 大学レベルと段階的に内部質保証を進めており，5) 全国レベル，6) 国際レベルの外部質保証へとつなげていくという，包括的，定期的，持続的な質保証を行うことを方針としている。

③ BPMA の質保証における役割

質保証における BIPA (教育質保証部) の役割には，1) アクレディテーションや教育に関わるランキングなどへの対応を中心とする教育の質保証と，2) 質保証に関わる活動の文書化と，内部監査などを実施する質保証マネジメント・システムの運営の2つがある。2つの機能が相互補完的に内部質保証から外部質保証へという流れを支えている。主な活動には以下のものがある。

- モニタリング BIPA が構築した評価システムに基づいて，各学部・学科にモニタリングシートを配付し，各学部・学科は，シートに必要事項を記入して提出し，BIPA がこれをもとに評価を行う。評価は点数をつけて行うため，自ずとレーティングが行われ，点数の低い学部・学科は，向上への刺激として作用している。また，評価結果は，学外にも公表される。
- 内部監査 毎年，100名体制の監査チームによる内部監査を実施している。内部監査は，学生による評価，モニタリングシートに加え，社会からの評価も参考とされる。BAN-PT による外部評価を受ける前には，定例の評価とは別に内部監査を行う。監査チームに入るには BIPA が実施する研修を受ける必要がある。

④ 教育の質保証について

教育の質保証は，各分野の教育内容の適切性について評価するというより，教育の提供プロセスなど，各分野共通に評価できる項目を中心とする

評価であって，教育内容については，IQF に沿っているかどうかの評価を実施しているだけである。カリキュラムは4-5年毎に見直ししているが，その際にも IQF に即しているかどうかを重視される。

ただし，IQF はレベルの記述が抽象的であるため，そのレベルに達しているかどうかは，法律に定められた基準を適用して検証している。

⑤ AUN-QA の評価について

UI は，「ASEAN 大学ネットワーク (ASEAN University Network, AUN)」が実施主体として ASEAN 域内の有力大学を対象に行う外部評価である「AUN 質保証 (AUN Quality Assurance, AUN-QA)」を ASEAN で4番目，インドネシアでは初めて受けており，7点満点中5点を獲得している。AUN-QA は ASEAN 加盟国の中での評価ではあるが，その評価基準のレベルは高く，機関別評価でありながら，学部・学科の教育内容の検証に役立つものである。また，認定を受けると，認定校間での留学が円滑に進むだけでなく，ASEAN 加盟国以外でも，留学の条件に設定している場合があり，政府の高等教育政策にも寄与している。

⑥ 学習成果の評価について

UI では，2009年からカリキュラムをコンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースで編成することを開始した。すべての学科でコンピテンシー・ベースを導入しているわけではないが，少なくとも AUN-QA の認定を受けている学科はコンピテンシー・ベースのカリキュラムとなっている。しかし，その学習成果の測定方法は確立できておらず，卒業から就職までの待機時間の長さ，学生自身の成績の状況，標準年限内に卒業できたか否か，といった単純な指標以外は，成果を獲得できたかどうかのアセスメントは自己評価の段階である。

なお、コンピテンシー・ベースのカリキュラムへの転換に対する教員の理解はなかなか得られなかったが、10年を経過しようとしている今、AUNに代表されるようなアウトカムベースの考え方が外部から入ってくるようになり、ようやく協力的になってきたといえる。

⑦ 小括

インタビュー調査を行っていて、興味深かった点として、法律で設定された評価基準に、「質保証」という項目がないことが挙げられる。これは、インドネシアの多くの大学で、まだ質保証のための組織を置いていないからではないかとの見解がUIから示された。

日本では、まず、自己点検・評価が努力義務として規定され、外部評価の努力義務化を経て、認証評価の導入に至るまでに13年かかっている。現在では、内部質保証の重要性が強調され、その質保証のエビデンスとしての学習成果の測定が求められている。外部質保証への対応に迫られているインドネシアとは対照的である。そのインドネシアにあって、UIがBPMAが質保証の中心組織となって、10年前から内部質保証に熱心に取り組んでいることは、注目に値する。ただ、内部質保証が組織的、段階的にきめ細やかに行われているものの、その目的が外部評価を受けるためであるとしている点には違和感があった。いずれにしても、内部質保証に取り組むことに多くの教員が意義を感じられるようなシステム作りが今後の大学を発展させるためのキーであることは間違いないだろう。

(3) アトマジヤヤ大学

① 調査の概要

2018年8月6日(月)午後、アトマジヤヤ大学(Atma Jaya University of Indonesia, AJCU)のセマンギ・キャンパスを訪問した。

AJCUは1960年に設立された私立のカトリック大学である。8つの学士課程プログラム(経済、工学、法学など)と7つの修士課程プログラム、(電気工学、心理学など)2つの博士課程プログラム(心理学など)を有し、約12,000人の学生が在籍している。インドネシアの私立大学では常にトップクラスの存在であり、大学全体でも同国内で10位以内にランク付けされたことのある大学である。訪問したセマンギ・キャンパスは市街の中心域に位置し、学生や教職員の様子からも活気溢れた都会の大学であることが窺えた。

調査当日は、経済経営学部(Faculty of Economics and Business)所属のLina Salim氏、Phil Juliana Murniati学務担当副学長(Vice Rector for Academic Affairs)、Endang Sulisty-aningsih准教授(経済経営学部)ほか、計6名のスタッフが対応され、AJCUで行われている高等教育質保証の取組やインドネシアの高等教育における質保証の課題などについて有意義なインタビュー調査を行うことができた。

② 調査の内容

まず、お互いの自己紹介の後、事前に送付していた7つの質問項目とその回答に基づいてインタビュー調査が行われたが、以下に、1)内部質保証について、2)外部質保証について、3)国境を越えた大学間交流について、の3つの視点より調査内容を記述する。

1) 内部質保証について

「内部質保証」システムの構築と運用については、AJCUは当初ISO2008によってシステムを構

築し、2009年から運用している。さらにその後、政府の指示による内部質保証の義務を履行するために、2017年にこのシステムをISO2015と並行して組み込み始めた。日本とは異なって、ISOによるマネジメントを導入していることについては、モニタリング、評価に役立っているとの回答があった。

AJCUでは年2回の内部監査を行っているが、そこでは、教員の採用にあたり大学院の修了証書があるかなどの証拠の提示を求めたり、シラバスが適切かどうかをチェックするなど、細部にわたってモニタリングする機能が使われているようである。教員の活動について、2017年に政府から7つの基準を示され、そのうち、教育、研究、社会貢献の3つは必ず遵守するように指導されている。

大学全体で行う内部質保証と教育プログラム(学科)毎に行う内部質保証の共通点あるいは異なる点についても説明があった。大学全体としての内部質保証はAJCUの質保証オフィスによってまとめられる一方で、それぞれの教育プログラムの内部質保証は教育プログラム毎に独自に開発したシステムでの準備活動や自主的活動に依存しているのが現状のようである。

「内部質保証」において、「ラーニング・アウトカム」はどの位置づけられ、その測定・評価に如何なる工夫がなされているのかとの質問については、多くの教員は率先して協力してくれない一方で、大学の義務なので半ば強制的に実施してもらっているという意味の回答があり、実効的な運用には至っていないという感想をもった。

2) 外部質保証について

大学固有の「内部質保証」と外部質保証機関の行うアクレディテーションは、どのような関係にあるのかについて説明された。

内部質保証及び外部質保証のいずれも政府によ

って義務化されている。

このうち、内部質保証システムは、自身の手で事前に課題を発見できる機会となっている。内部質保証の実施単位については、教員は大学に所属するが、実質的には37ある教育プログラム(学科)に帰属しているので、それぞれの評価は教育プログラム(学科)毎に行われている。また「ラーニング・アウトカム」は内部質保証におけるきわめて重大な課題であることから、AJCUはラーニング・アウトカムに到達できるよう教育・学習プロセスを確保する責務をステークホルダーに対して負っている。

さて、外部質保証を主目的として評価を行うのが「インドネシア国立高等教育アクレディテーション機構(National Accreditation Agency for higher Education, BAN-PT)」である。評価の結果、改善や修正が必要なときに教育プログラムや大学に通告がなされる。現在、内部質保証のプロセスで「ラーニング・アウトカム」を測定・評価するようBAN-PTからの指導はないが、近いうちに、BAN-PTはラーニング・アウトカムを測定・評価するための改革を行うことが予定されている。

BAN-PTの質保証システムはASEANの質保証の共通枠組みと一致しつつあり、そこで用いられる大学に適用される基準も、ASEANの共通的な基準と整合させていく方向にある。

これとは別に、政府とは独立して専門分野別評価を実施する機関として制度化を見たのがLAM-PTである。しかしながら、現時点で運用の緒に就いているのは医療分野のプログラムのみであり、今後は法学系と経済学系についてその設立・運用が計画されている。

次に、学位授与・卒業認定に至るプロセスにおける「インドネシア資格枠組み(Indonesian

Qualifications Framework, IQF」における「高等教育レベル」の部分の位置づけ、活用法についての説明があった。

IQFはカリキュラムの構築におけるそれぞれの教育プログラムへの指針であり、各カリキュラムの学位授与に必要な知識・能力の要件を満たしているかどうかを評価する枠組みである。IQFではそれぞれの学位の段階毎に、「1. 姿勢と価値観」、「2. 一般技能」、「3. 専門技能」、「4. ノウハウ」が設定されている。「1.」、「2.」は国が決めるが、「3.」、「4.」はそれぞれの職業団体と人材を活用するユーザーが独自に決めてよいものとされている。なお、IQFの運用主体はBAN-PTではなく国の権限に属している。

ところで、インドネシアには約4000の高等教育機関があり、すべての大学を対象にIQFの遵守の状況を物理的に検証できないのが現状である。さらにジャワ島以外の大学では質保証自体への理解が不足しておりこれを説明する必要があることから、インドネシア全体にIQFを運用させるのは難しい。BAN-PTが担当する大学が多すぎて対応しきれないことの課題と相俟って、高等教育質保証のもう一方の重要な柱であるIQFの実効性も十分ではない、との印象は否めなかった。

外部質保証機関であるBAN-PTについては、2019年のアクレディテーションを通じ教育プログラムと大学にとって改善・向上のための良い機会を提供すると期待されている。同システムは、目標達成のための認識をより高めるための一つのモデルとなり、今後の高等教育の発展のための評価の源となる。例えば、もしアクレディテーションの準備過程で実行された内部質保証が実際の評価によって支持されないのであれば、教育プログラムや大学にとって重い負担となるので、内部質保証を十全に行うことはBAN-PTによる外部質保

証の準備過程として重要な役割を果たす。外部質保証機関のアクレディテーションに対しては、当初、その義務づけがなされる中で「認定」されることだけを目指したが、その実質的なメリットとして、後々に学生の受け入れと卒業のための教育の効果を高める上で必要と考えられるようになり、大学の持続的改善に大きな役割を果たしてきている。

3) 国境を越えた大学間交流について

ASEAN地域横断的な大学間交流、学生交流において、高等教育質保証の効果はASEAN地域に所在する大学間で現状では完全には共有できていない。しかしながら、ASEAN諸国は国境の枠組みを越え、高等教育機関における教育や学習と同様に学生や研究者をさらに受け入れる必要があるため、ASEAN地域の高等教育において質保証が緊急で重要な問題であるとの傾向は強まっている。

AJCUは現在、「ASEAN大学ネットワーク(ASEAN University Network, AUN)」の分野別質保証プロセスを通じその認定を得て、自学の優良な教育プログラムを選択している。学生や研究者などを受け入れる際の客観的なガイドラインが必要であり、AUNを通じた質保証が学生の交流に有益と考えている。

③ 小括

調査を通じて、人口の急激な増加と高等教育需要の拡大により、高等教育機関が約4000もあるなど、一つの評価機関(BAN-PT)では充分に対応しきれない状況にあり、高等教育の質保証のシステムは十分ではないとの印象を得た。

最後に行ったAJCUと我々との日本のシステムについてのディスカッションで強調されたことであるが、そこで提起されたAJCU関係者の「なるべく海外の大学との交流を希望するものの十分に出来ていないのが現状である」との発言は、大学のより効率的な運用のためには、質保証と併せ

て有益な情報が必要であるというのが本音であるように思えた。

4. 本調査の意義と成果——むすびにかえて——

ASEANの持続的な発展と社会の安定を維持していく上で、高度人材育成を担う国別の高等教育機関の国境を越えた教育研究交流の活性化が強く求められている。こうした要請の下、ASEAN域内における学位等の「資格 (qualifications)」の等価性・透過性を確保するために同域内の高等教育質保証の共通枠組みを構築するとともに、同域を構成する国々はそうした枠組みと整合した質保証の仕掛けを構築・運用する必要性に迫られている。

インドネシアはASEANの様々な領域で圧倒的な優位性を誇り高等教育の規模も同域で最大であるにもかかわらず、その仕組みや実体について未解明な部分が少なくなかった。今回の調査は、同国の高等教育質保証システムの解明を目指すという視点から見て、重要な成果をもたらすものであった。

第1に、同国唯一の機関別アクレディテーション機関である「インドネシア国立高等教育アクレディテーション機構 (BAN-PT)」の組織体制、評価基準、アクレディテーション手続、大学機関別評価とプログラム評価の関係、評価者の資格と研修の方法、評価結果の効果、等の詳細を把握することができた。また、内部質保証やアウトカム評価の方向に評価の手法を転換する方向にあることや、そうした動きに「インドネシア資格枠組み (IQF)」並びに質保証に係るASEAN共通の枠組みである「ASEAN資格参照枠組み (AQR)」、「ASEAN質保証ネットワーク (AQAF)」の二つの仕組みの存在が大きく作用していることも確認できた。

第2に、インドネシアを代表する大学という前

提条件付きながら、そこで法令の存在を意識しつつも、大学に固有のモニタリング機能を内包させあるいはISOのマネジメント・システムを活用するなど、率先してその大学に相応しい内部質保証システムを構築し、法令由来の基準と独自基準に即しその教育の高度化を図る努力を垣間見ることができた。そうした営みがBAN-PTの外部評価に備えるという側面を有しつつも、それは国外の外部評価の仕掛けである「ASEAN大学ネットワーク (AUN)」の評価にも対応させるというより積極的側面を有するものでもあった。

第3に、今回の調査でBAN-PTが大学のカリキュラムの法令準拠の状況を「インドネシア資格枠組み (IQF)」に照らして査察することとされていることと相俟って、各大学もカリキュラムの編成にあたりその教育目標と関連づけながら、当該カリキュラムのIQFへの適合性の自己検証を行っていることが確認できた。通常理解として、IQFは学生の修了時の学力到達度の測定指標としての役割を果たすと考えるべきところ、実際の運用において、カリキュラムの適切性の検証ツールとして機能していることを知り得たことは今回調査の大きな成果の一つであった。その意味において、IQFを含む国別の「資格枠組み (Qualifications Framework)」は、カリキュラムの検証を軸とする分野別質保証のための共通の指標としての意義をも有するものでもあることが、今回調査を通じ十分理解できた。

さて今回の調査では、ASEANの高等教育統合を指向するAQR、AQAFといった質保証の共通システムが整備されつつある中で、インドネシアの高等教育質保証システムの整備も速いテンポで進められつつある。同国の高等教育の量的規模が大きすぎることや質保証文化が十分には醸成されていないことと相俟って、これら制度の運用実態

は発展途上の段階にあることは否めない。翻って我が国高等教育質保証システムの整備状況を見ると、国境を越えた大学間交流をより有為なものとするための質保証の仕掛けが整備途上段階にある。

こうしたことから、既にその整備が最終段階にあるインドネシアの一連の試みを精緻に観察・検証しその成功部分と課題を明らかにする中で、我が国の高等教育の一層の発展を展望することに、今次の調査の大きな意義があることを最後に強調しておきたい。

参考文献

- 早田幸政「ASEAN 地域における高等教育質保証連携と「資格枠組み (QF)」の構築・運用の現段階—今、日本の高等教育質保証に何が求められているか—」大学基準協会『大学評価研究』第17号 (2018.10).
 - 早田幸政「ASEAN におけるラーニング・アウトカムの測定・評価を軸とする高等教育質保証体制構築に向けたチャレンジに関する研究」中央大学教育学研究会『教育学論集』第59集 (2017.2).
 - 服部美奈「インドネシアの高等教育戦略」リクルート『カレッジマネジメント』207号リクルート進学総研207号 (2017.11~12) (http://souken.shingakunet.com/college_m/2017_RCM207_52.pdf#search=%27%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%8D%E3%82%B7%E3%82%A2%E3%81%AE%E9%AB%98%E7%AD%89%E6%95%99%E8%82%B2%E6%88%A6%E7%95%A5%27, 2018.9.6閲覧).
 - みずほ総合研究所編『[図解] ASEAN を読み解く』東洋経済新報社 (2015.10).
 - 石川幸一・朽木昭文・清水一史編著『現代ASEAN 経済論』文眞堂 (2015.9).
 - 中矢礼美「インドネシアの高等教育における地域開発のための人材育成—実践教育 (KKN) に注目して—」広島大学高等教育研究開発センター『大学論集』第47集 (2015.3).
 - Hans Nicholas Jong “Govt steps back from Accrediting med schools” The Jakarta Post 2015.2.13 (<http://www.thejakartapost.com/news/2015/02/13/govt-steps-back-accrediting-med-schools.html>, 2018.9.6閲覧).
 - 大学改革支援・学位授与機構 NIAD-UE 評価事業部国際課「ブリーフィング資料：インドネシア高等教育の質保証」(http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/info/indonesia/no17_BriefingonIndonesiaQAinHE%28JPN%29_protected.pdf, 2018.9.6閲覧).
 - 大学改革支援・学位授与機構 NIAD-UE 評価事業部国際課「インドネシア：分野別アクレディテーション機関『LAM-PT』の整備状況」(https://qaupdates.niad.ac.jp/2017/08/10/indonesia_lampt/, 2018.9.6閲覧).
 - 高松典雄「インドネシア高等教育の現状と課題」帯広畜産大学リポジトリ (file:///C:/Users/hayata/AppData/Local/Packages/Microsoft.MicrosoftEdge_8wekyb3d8bbwe/TempState/Downloads/indonesiakadai%20(3).pdf, 2018.9.6閲覧).
 - 黒田一雄編著『アジアの高等教育ガバナンス』(2013.2) 勁草書房.
- 早田幸政 (中央大学理工学部教授・高等教育論)
 前田早苗 (千葉大学国際教養学部教授・高等教育論)
 島本英樹 (大阪大学全学教育推進機構准教授・高等教育論)
 田代 守 (大学基準協会評価研究部・調査研究課課長・高等教育論)